

中学部 総合的な学習の時間「サンチャゴのすてきな人」

前サンチャゴ日本人学校 教諭

栃木県宇都宮市立陽東中学校 教諭 富田 好

キーワード：在外教育施設、サンチャゴ、中学校、総合的な学習の時間、キャリア教育

1. ここだからできるキャリア教育

チリで働き、生きる日本人の中には、それぞれの強い思いや並々ならぬ努力の経験をもっている方が多くいる。日本で生活してはなかなか出会えない方たちばかりであり、日本人学校の教育に快く協力して下さる方ばかりである。なるべく多くの方と、中学生を出会わせ、学ばせたいと思った。海外で生活している子どもたちと、育った環境が似ている方、まったく違う方、想像もしない生き方をしている方にたくさん話を聞いたり、職場体験させていただいたりすることで、未来の無限の可能性を知り、「こんな人になりたい」という夢や目標を持たせたいと思った。

サンチャゴ日本人学校の先輩小学校教諭と共に、同窓会長を始めとしたチリで生きる日本人の大人たちに協力していただきながら、中学部の総合的な学習の時間の単元「サンチャゴのすてきな人」を計画し、実践した。

2. 単元「サンチャゴのすてきな人」の概要

サンチャゴ日本人学校中学部の総合的な学習の時間は、学年合同で行う。年間で学習が完成する計画ではあるが、3年間在籍できる生徒は少ない。

①「サンチャゴのすてきな人ガイダンス」

2年生が、1年生に向けて、前年度学習したことや、どんな成長があったのかを語り、コミュニケーションスキルやまとめ方のスキルを教える。1年生はガイダンス後の思いを書いて残す。

②特別授業

チリで働き、生きる日本人をゲストに迎え、これまでの人生での出来事、思い、仕事、夢などを話していただき、生徒は付箋にメモを取りながら聞いたり、質問したりする。

③ゲストの分析、まとめ（個人）

ゲスト一人ひとりについて、付箋メモをもとに、A3の白紙を自由に使い、「この人はこんな人」とまとめしていく。「こんなところいいな」「こうは生きられないな」など、自分の気持ちも入れる。

④ゲストの分析、まとめ（共有→個人）

ひとりのゲストについて、それぞれがどのようにまとめたかを見せ合い、コメントし合う。その後、個人のまとめに追加、修正を行う。ゲストの写真を掲示し、その周りにそれぞれが「この人はこんな人」と一言で付箋に書いて貼る。いつでもゲストを振り返ることができるようにする。

※①～④を通年で行う。平成29年度は、13名のゲストと授業を行った。

今回、中学部のゴビウエについての説明を受けて、一番心に残ったのが、すごく苦い体験をした人に話を聞いたということです。一番気になって、自分も話を聞きたい!!と思いました。私は、将来、貧しい人々を助けたり、少なくなってしまう地球にとって必要な職業につきたいと思っています。だから、このゴビウエの授業では、どんな職業があるのか、そしてその職にはどんなことで人のためになるのかを学びたいです。

①ガイダンス後の1年生の思い

ゲストの分析・まとめ
ゲストの名前、年齢、職業、住んでいる国、来日した理由、滞在期間、好きな食べ物、得意な科目、特技、夢、コメントなど。
ゲストの写真を貼り、その周りに「この人はこんな人」と一言で付箋に書いて貼る。

③④ゲストを分析・まとめ

⑤ 2年生 職場体験

冬期休業中に、1人ずつ1つの事業所で2日間行う。仕事の内容だけでなく、働く人の思いや姿から学ばせるため、受け入れ担当の方には、1学期中にゲストに来ていただくことにした。

⑥ 2年生 職場体験発表会

職場体験でやったことと、学んだこと、伝えたいことを発表する。形式は自由で、必ず聞いている生徒からの質問・コメントの時間をとる。会の最後に、1年生はどんな感想をもったかを語る。

⑦ 「今年のゲストを振り返るコーナー」

3学期に、1年間で来てくれたゲストの写真を並べ、

- ・心に残った言葉
- ・似ている人と違う人
- ・見習いたい部分
- ・真似できない部分
- ・自分も経験したいこと

などのトピックを立てて、全員で自由に話し合う。

⑧ 1年間のまとめ、発表会

形式自由で、「サンチャゴのすてきな人」から学んだことをまとめ、発表する。

※3年間在籍した3年生は、3年間のまとめを1冊の本にまとめる。

3. 生徒の声

私が勤務した3年間で出会った生徒たちは、全員「日本人」であったが、両親のうちどちらかが日本人でなかったり、両親どちらも日本人ではあるが、生まれも育ちも日本ではなかったり、最近人生初めての海外生活が始まったばかりだったり、状況は様々だった。特に海外生活が長い生徒にとって、まわりの大人と言えば父親と同じ会社の人が多いとあり、「自分も将来はこの会社に入って海外で生活するのだろう。他の職業はあまり知らない」というように、進路を考えたときの選択肢があまりにも少ないことに驚いた。このような生徒たちが、人の多様な生き方に触れることができたのは、大変有意義であった。「この仕事に就きたい」と具体的に決める前に、「今の自分はこんな人」と分析し、「こんな人になりたい」と、将来に希望をもつことができた。

「自分たちが海外で生活していることは、『日本人として、とても特別な経験。将来に生かしたい』とは思っているが、その方法はわからない」子どもの頃に海外生活を体験したゲストたちは、それぞれのエピソードや考え



⑤職場体験学習日誌

大事ということも改めて思いました。信頼関係が一番大事ということは、いつも私も思っています。人を信じる事で物事をたのむことができる。そして人を信じて決めたことと信じることも再確認しました！
そしてなにより、仕事を楽しくすることが一番大事だということが分かりました！実際にこれらのことを生かして、私も働くことが楽しみになってきました。新しい発見があたり、身近に活用できる知識が増えたりできるので、「働く」っていろんな意味でいいですね。

⑥職場体験発表会後の1年生の感想



⑦「今年のゲストを振り返るコーナー」

を、自信をもって語ってくれた。『『私は日本人』と言葉では言うが、『ふるさとはどこ』と聞かれると、答えは『日本』ではない。私は本当に日本人なのだろうか』両親とも日本人なのに、大人になって日本語を覚えたというゲストは、自らがずっと抱えてきた不安について正直に語り、生徒たちの心の奥のもやもやに迫り、自分自身について深く考えるチャンスを与えてくれた。

授業を振り返った生徒たちの言葉の中には、

- ・「働くことは楽しそうだから、不老不死の薬を使っても長生きして長く大人でいたい」
- ・「自分は日本にほとんど住んだことがない日本人。自分がだれなのか、自分に何ができるのか、もっと考えたい」
- ・「中3で日本に帰るべきか、チリに残るべきか悩んでいたが、ゲストの経験を聞いて、自分のことも伝えられたことで、自分で決心できた」

などがあった。

チリで生き、働く日本人には、それぞれに特別な環境や事情があり、挑戦や努力の歴史がたくさんある。自分を見つめ、将来を考える中学生には、その大人から学ぶべきことがたくさんある。どれだけ多くの人と出会い、どれだけ多くの話をするかは、人間の成長に大きく関係すると感じた。この学習をした中学生が、自分の境遇や努力したことに誇りを持ち、希望をもって未来を考えていくことを心から願っている。



⑧1年間のまとめの例「すてきな語録」